

第84回運営委員会の協議状況

日時 平成20年7月28日(月)13:30~17:15

場所 宝塚商工会議所 第2、3会議室

出席者 (委員)松本(誠)、奥西、法西、岡田、酒井、佐々木、田村、土谷、中川
(河川管理者)松本、森口、古高、杉浦、長田、吹田、岩間、松井、伊藤、平塚

内容(協議結果)

1 減災対策について

県より、「減災対策勉強会」(資料1)について説明があったが、減災対策勉強会の対象とする課題が緊急時の避難対策に限られていたことから、各委員が疑義を唱えた。危機管理、減災対策は緊急時の避難の問題と並んで流域の浸水被害を軽減するための耐水都市づくりや土地利用等のハード対策の重要な論点として委員会提言に盛り込まれており、基本方針にもうたわれている。したがって、避難対策とともにめざす土地利用や都市計画の観点からの減災対策についての検討や勉強会も必要であるとの意見もあり、県は次回運営委員会までに具体的な進め方を検討して提示することになった。委員会は避難対策だけを「減災対策」として取り組むことには同意できないことを表明した。

(主な意見等)

Q1 この案では、ソフト対策とハード対策の関係がわからない。(委員)

A1 ハード対策は「治水対策の推進」の中で河川管理者が検討し、ソフト対策と絡む部分を勉強会で検討していく。(県)

Q2 下流域は密集市街地であり避難所に行けないケースなどもあり、民間マンションと協定すること、建物のピロティ-化、土地利用の状況を変えることなどを勉強会の検討対象と考えているのか。下流エリア以外の浸水常襲地への対応は?(委員)

A2 建物対策、土地利用対策は長期的な話であり、勉強会では避難対策を優先的に検討する。下流エリア以外の上流域での浸水は、内水であること、過去の経験もあることなどから、下流築堤区間を優先的に扱う。(県)

Q3 避難対策と同様に、逃げずにすむまちづくりや土地利用なども重要なファクターである。これらの検討はどこで行うのか。(委員)

A3 武庫川総合治水推進会議などで検討したい。(県)

- ・ 整備計画は30年間の計画期間であり、その間にどんどん流域では土地の利用が進み、建物の改築や建て替えが進む。いま進行している計画に歯止めをかけたり、耐水都市づくりを進めないと手遅れになる。土地利用や建築対策も緊急課題として取り組むべき。(委員)
- ・ 委員会の提言の危機管理は、クライシスマネジメントとリスクマネージメントを合わせたものであるが、県がやろうとしているのはクライシスマネジメントの部分だけである。危機管理は両方セットで動かさないと意味がない。また、今回の提案はクライシスマネジメントの中の行政でやろうとしている部分を取り出したものであり、住民の視点にかかわる部分が抜けている。(委員)
- ・ 減災対策を検討する全体の枠組みの中で、今回の検討の位置付けを整理する必要がある。今回の検討が、減災対策の検討の全てではないと整理したうえで、もう一つの減災対策についてもどのように取り組むかを明確にしたうえでないと、流域委員会としてコミットできない。(委員)
- ・ 仮に、今回の検討が、避難対策の行政部分の検討であるということであれば、勉強会での委員会の立場は、住民視点の提供と住民視点でのチェックということになる。(委員)
- ・ 園田東地区の住民(「藻川の堤防を考える会」主催)が、猪名川河川事務所や尼崎市の協力を得て、水防活動体験を実施している。なぜ住民が自主的にこういった取り組みをしたのか、県は活動の動機を直接確認してほしい。(委員)
- ・ 勉強会に他団体を招いて事例紹介をうけるという方法もある。(委員)
- ・ 減災対策を整備計画に位置付ける方法を提示してほしい。(委員)
- ・ 避難についての勉強会はこれでやればいいが、別途、まちづくりや土地利用の勉強会の立ち上げが必要で

ある。もう一度検討して、次回の運営委員会で相談してほしい。（委員）

2 流域連携について

県より、「流域連携についての県の考え方」（資料2）について説明があり、委員会からは「連携は具体的な計画づくりや川づくりのプロセスで、河川管理者の県と自治体、住民、諸団体が一緒に行動し、連携していくことが大事だ」との指摘があり、以下のことを確認した。

県はこれまで具体的な行動や活動の場で一緒に行動していくという視点や具体的な案を持ち合わせていなかった。武庫川の水質調査やアユの生態状況の把握、アユの遡上しやすい環境整備の具体策を考えることなどで、どういう連携行動ができるか検討する。

アユの遡上状況等について、武庫川漁協や流域団体などとの情報交換や関係機関とともに検討を行い、具体的な対策に生かしていく。

県は「流域連携を進める会」が実施してきた水質調査等との連携について具体的に検討する。

県は今後、「流域連携を進める会」の会合等に積極的に参加し、連携の実を上げるよう努力する。

武庫川ガイドブックの編集・出版については、県がどのようにかわれるか、具体的に検討する。

（主な意見等）

- Q1 県は流域連携に具体的にどのように関わるのか。（委員）
- A1 現段階で資料2の記載以上に言えることはない。武庫川ガイドブックの関連では、航空写真や地図をデジタル化してそれを提供して連携していくことを考えているが、予算的に厳しい状況である。（県）
- Q2 アユの生息に関する具体的な取組みは？（委員）
- A2 「ひょうごの川・自然環境調査」によるとアユは名塩付近まで遡上しているが、国道2号下流の床止めにおいては、魚道はあるものの、床止め直下の水深が浅いことなどから、遡上しにくい可能性もあり、十分な状況とは考えていない。河川の連続性の向上をはじめ、水質などの面でも、より望ましい生息環境の整備が必要と認識している。漁協による遡上に関する調査結果と県の自然環境調査結果との相違を確認し、必要に応じて専門家の意見を聞いたうえで、関係機関と連携して対策の検討を行い、その成果を可能な限り整備計画に反映したい。（県）
- Q3 県が実施する水質調査に住民が参加して、同じ時間に同じ場所で水質測定を実施すればどうか。また、住民が水質調査を実施した地点で県も水質測定を実施すればどうか。（委員）
- A3 水質調査の実施主体は県の環境部局以外の場合もあるので持ち帰って検討する。（県）
- ・ 活動内容の多様化や人員不足については、県も活動に加わって実情をわかってほしい。（委員）
 - ・ 財政難は理解できるが、その中でより有効な予算の使い方があると思う。（委員）
 - ・ 全体として県はもう少し主体性を発揮してほしい。（委員）
 - ・ 環境部局が行っている武庫川流域環境保全協議会は予算が少ない。流域連携は河川管理者が行ってほしい。（委員）
 - ・ 地域活動を一生懸命行っているが、助成金を受けるのもいろいろ困難である。県は何をしてきているのか。何か一つでも具体的に書くことを書いてほしい。（委員）
 - ・ 潮止め堰とアユの遡上との関連は、堰を倒して確認してはどうか。（委員）
 - ・ アユの遡上は床止工など治水計画とも大きく関連している。治水も含めてどうするか考える必要がある。（委員）
 - ・ アユはBOD 5mg/l以下でないと生育できない。参考資料2の5ページの結果では下流域でアウトであり、水質改善の方からアユを考えていきたい。（委員）
 - ・ 武庫川でもアユ遡上の可能性はあると思う。水深が浅いことなど課題は多いが、アユ釣りができるという昔の河川に戻りたい。（委員）
 - ・ 武庫川で発生している白い泡については、専門家に相談してほしい。必要なら調査を実施して、おおよそ泡の原因を明らかにした上で、少なくとも整備計画に対策の道筋を盛り込んでほしい。（委員）
 - ・ 武庫川づくりと連携を進める会は、釣り人の状況など現状をよくみている。同会と連携した計画づくりが必要である。（委員）

3 その他

- (1)資料3に関連して、基本方針の国交省同意が未だに得られていない結果、基本方針を流域住民に広く周知する手立てが未だに取られていないことは問題だ。速やか同意を得るか周知の仕方を考えるべきだとの指摘があった。
- (2)既存ダムを活用について、水需給の問題を県が各市とどのように協議しようとしているのかを次回運営委員会で示す。
- (3)武庫川の整備計画作成に関する一般住民への情報提供のため、ホームページ上での運営委員会資料について、ニュースレター送付時に案内するとともに、掲示方法をわかりやすく改善する。

(主な意見等)

(1)基本方針同意

- ・河川構造令にある「流水の通常の作用に対する安全」の意味を教えてください。(委員)
- ・住民にとって、現状では基本方針が決まっていないということだから、国交省同意を急ぐべきだ。

(委員)

(2)既存ダム活用

- ・今出ダム、上矢作ダムなど新規ダム中止、既存ダム活用は全国的な流れになっている。しっかり検討してほしい。

(委員)

(3)情報提供

- ・流域委員会に傍聴されていた方3人から、今の武庫川に関する動きがわからず県や委員会に不信感がある旨のコメントがあった。(委員)

4 日程調整

次回運営委員会の日程候補日を以下のとおり選定し、後日、欠席委員の意見を聞いた後、決定する。
9月17日、28日、10月8日、9日、10日

第84回運営委員会配付資料

議事次第、委員名簿

資料1 減災対策勉強会の設置(案)

資料2 意見書(流域連携)に対する県の考え

資料3 (委員からの意見書)武庫川水系河川整備基本方針について(岡田委員)

資料4 (委員からの意見書)質問書(佐々木委員)

(参考資料)

1 第83回運営委員会の協議状況

2 「武庫川水質・水環境一斉調査」の結果について(村岡委員)